

# 経済 TOPICS

No. 253

(2026年3月13日)

## 景気ウォッチング（要旨）

日本 … 個人消費と輸出が横這い圏内の動きを続け、生産が底堅く推移しているなか、設備投資が上昇傾向を続けていることから、全体として緩やかな回復の動きが続いている。消費者物価(除く生鮮食品)の前年比プラス幅は、縮小している。この間、米国・イスラエルとイランの戦争による中東情勢の緊迫化から、先行き不透明感が一段と強い状態になっている。

米国 … 個人消費が鈍化傾向にあるものの、生産が緩やかに回復し、設備投資が大幅な増勢を続けていることから、全体としては底堅く推移している。雇用情勢は軟化し、消費者物価(総合)の前年比プラス幅は、前月と同水準になっている。この間、イランとの戦争開始により、先行き不透明感が一段と強い状態になっている。

### (参考)日米の物価動向

〈日本〉 食料価格(除く生鮮食品)の前年比プラス幅が縮小し、エネルギー価格が下落したことなどから、消費者物価(除く生鮮食品)の前年比プラス幅は縮小した。この間、実質賃金が足許で前年比プラスとなったものの、エンゲル係数(家計の消費支出に占める食費の割合)は、高水準を続けている。

〈米国〉 サービス価格の前年比プラス幅が前月と同水準となったことなどから、消費者物価(総合)の前年比プラス幅も前月と同水準になっている。